

靴の歴史散歩 ⑥4

皮革産業資料館 常任委員 稲川 實

日本で、日本人による西洋靴の生産が始まったのは、明治3年(1870年)3月15日である。

そして、第一回内国勸業博覧会が、上野公園で開かれ、そこに多くの靴工が製品を出品、数々の賞を得たといわれるのは、明治10年(1877年)のことである。この間には、僅か7年の経過しかない。日本人は、手先きが器用といわれる由縁も、この辺にあるのであろうか。

さて、上野公園不忍池畔に、台東区立下町風俗資料館というのがあるが、ご存知であろうか。ここに『御一新開業一覽』(明治7年刊)というまことに興味津津たる開化番付が所蔵されている。ちょうど同時代とタイミングも良いので、本題の参考資料としてご紹介することにした。

(掲載写真参照)

内容は、明治の文明開化で新規開業した企業や職業を取りあげたもので、読むほどに明治初年の熱気が感じられ、産業資料としても垂涎の一品である。

番付東之方2段目中央に、西洋靴職が見えるからうれしい。西之方の同じ中央には、西洋服仕立職があって、いずれも明治開化期の花形職業であったことが分かる。

東之方には、写真師、人力車製造工、西洋器械鍛冶、椅子職、鉛版師、蝙蝠傘職、メリヤス職、ブリキ職、などが続いている。因に、西洋服仕立職とメリヤス職は、西村勝三が明治5年に創業したもので、共に業祖である。

西之方には、煉瓦石職、西洋馬具職、石版師、出来合油絵師、洋蠟職、ステーキ職、ペンキ職と列記されている。

東之方の張り出しに、雀糞会社というのが見えるが、これはいったい何んの会社だったのであろうか。小石会社というのもあるが、これは建設資材会社のようにも読める。

静斎年一の錦絵『諸工職業競・靴製造場之図』は、『かわとはきもの』「靴の歴史散歩」⑩で紹介しているが、年一はこれをシリーズ化し、15の新規職業を活写したという。しかし、残念な

がら現時点では、8業種しか確認することができない。

『幕末明治の浮世絵集成』(樋口弘編著・味燈書屋・昭和30年刊)に、モノクロでの掲載だが、その8点を観ることができる。

『諸工職業競 時計師』(明治12年)

『諸工職業競 西洋馬具製造』(同年)

『諸工職業競 造船所ドック中ニ蒸気修繕ノ図』(同年)

『諸工職業競 諸車製造之図』(同年)

『諸工職業競 靴製造之図』(同年)

『諸工職業競 椅子製造』(同年)

『諸工職業競 糸くりきかい』(同年)

『諸工職業競 蝙蝠傘製造』(同年)

いつの日か、静斎年一の錦絵・諸工職業競の全てを、この目で確かめたいと思っているのだが、なかなかその機会には恵まれそうもない。



台東区立下町風俗資料館 所蔵